

1号機 原子炉格納容器内窒素封入設備 実施計画変更に伴うコメント回答について

平成28年4月19日
東京電力ホールディングス株式会社

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved. 無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

TEPCO

1. 既設ラインの健全性について

1

① 1号機は事故時にPCV※1が高温となったが、JP※2計装ラックからの窒素封入ラインの健全性はどのように確認しているのか。

- JP計装ラックは元々、各JPの流量を算出するため、代表点(炉心支持板下部)と各JPの差圧を検出するための設備である。(補足資料1参照)
- 事故以降のJP計装ラックからRPV※3までのラインの健全性を確認するため、以下の試験を実施した(第2回面談にてご説明)。
 - ・平成26年7月28日～8月5日に健全性確認試験(14ラインを1ライン毎封入して確認)
 - ・平成26年8月20日～8月27日に安定性確認試験(代表2ラインで1週間封入して確認)
- 試験の結果、D/W※4圧力およびRPV・PCV温度について、通常発生しうる変動幅を超えるような変動はないことを確認し、ラインが健全であると判断している。

※1 PCV:原子炉格納容器
※2 JP:ジェットポンプ
※3 RPV:原子炉圧力容器
※4 D/W:ドライウェル

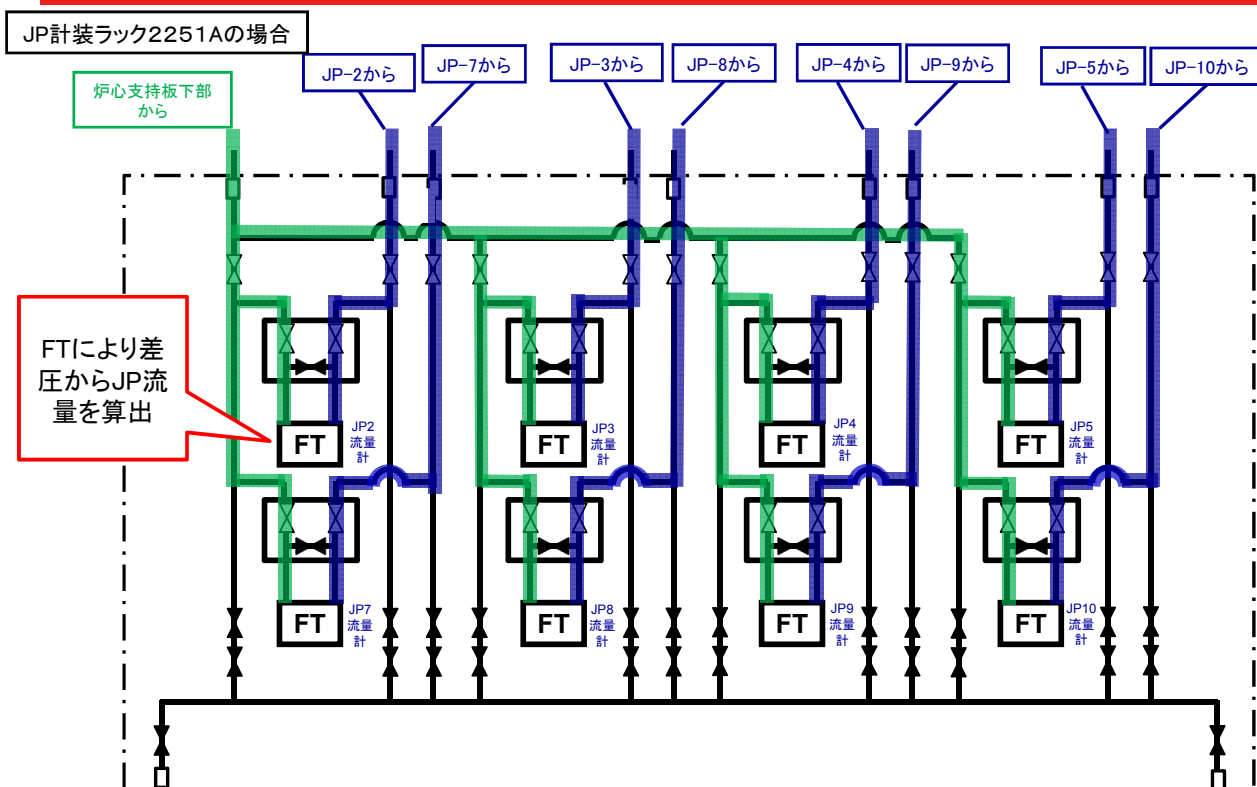
©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved. 無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

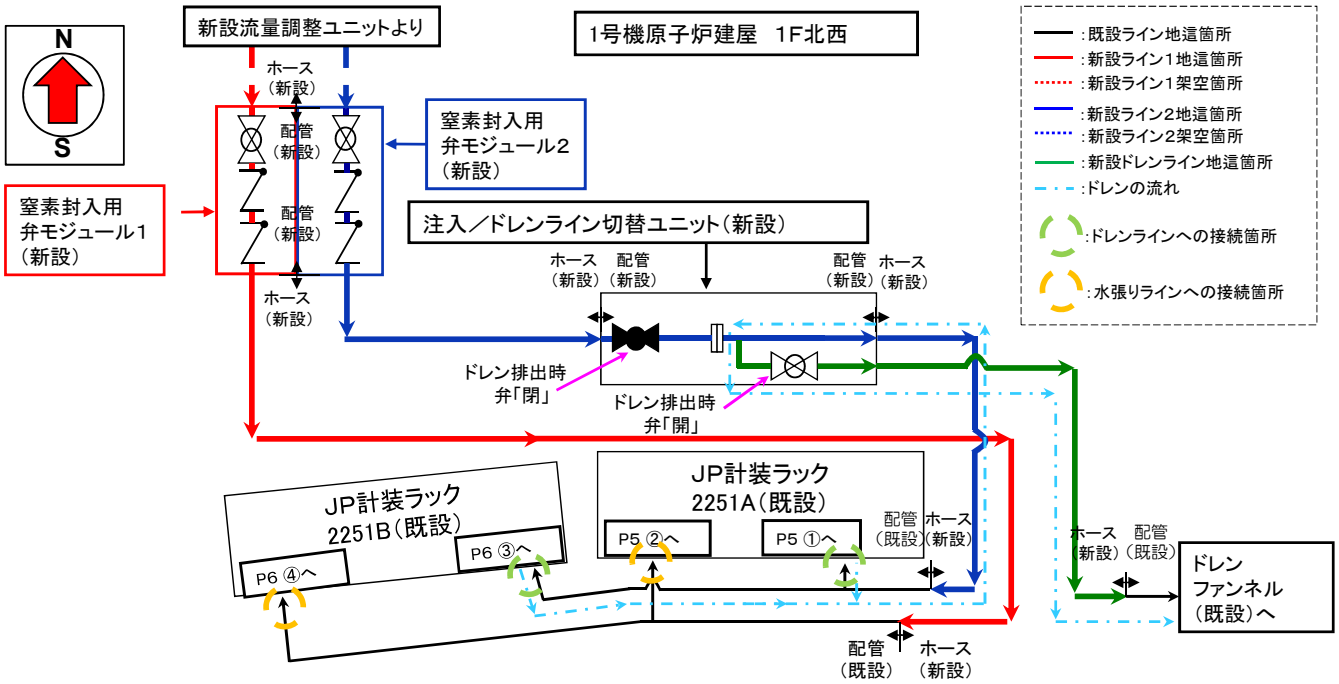
TEPCO

②注入/ドレン切替ユニットは1つしか設置しないが、設置目的及び使用方法について説明すること。

- JP計装からRPVまでのラインは、元々内部流体は水であることから、使用に際しては配管内部に水があることを想定し、ドレンラインを設置している。
- JP計装ラック2251A, 2251B両方から「注入/ドレンライン切替ユニット」へ接続し、封入試験前に水抜きを実施している。
- なお、今後JP計装ラックから窒素封入を開始する前は、結露水等の発生を考慮し、念のため「注入/ドレンライン切替ユニット」を使用してJP計装ラック内のドレン抜きを行う運用とする。

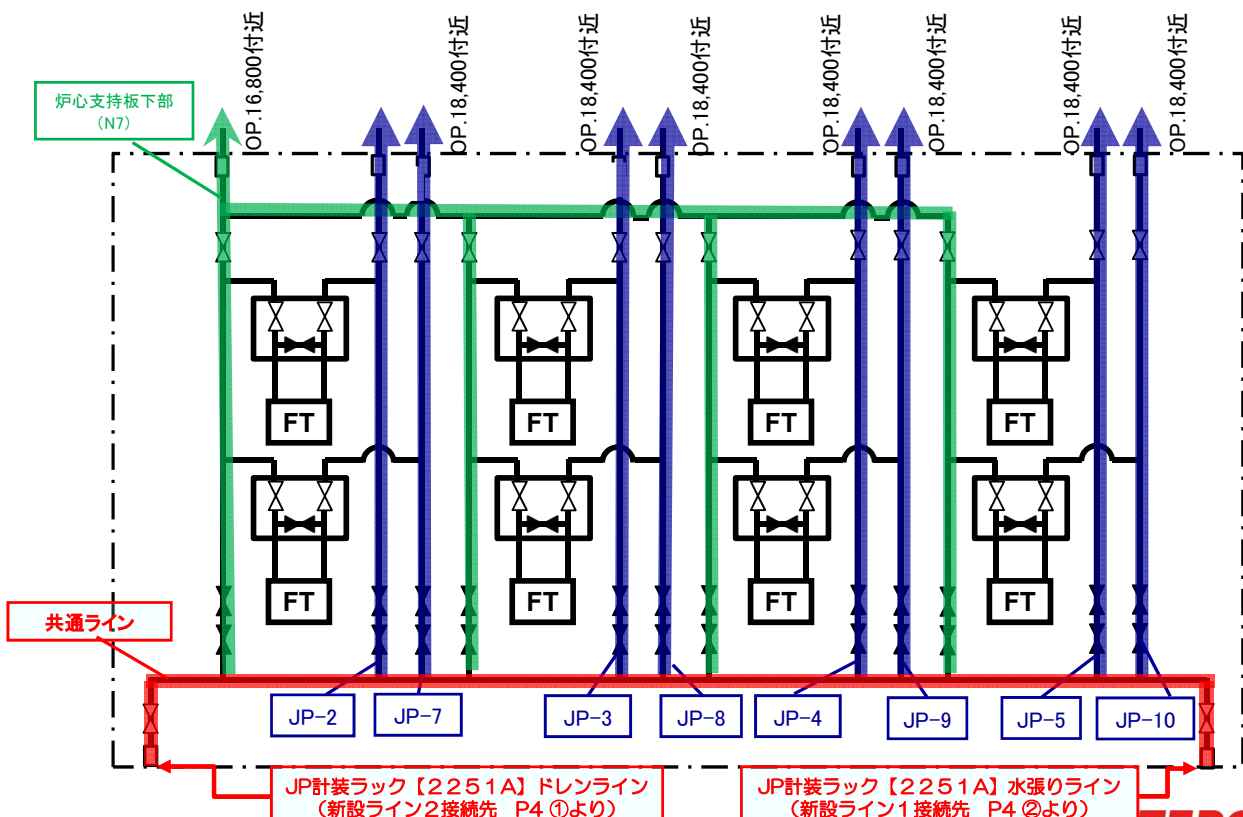
補足資料1 JP計装ラックについて





※ JP計装ラック内にドレン水が残留していないことを確認済み
JP計装ラックから室素封入を開始する前は、結露水等の発生を考慮し、念のため「注入/ドレンライン切替ユニット」を使用してJP計装ラック内のドレン抜きを行う運用とする。

補足資料2 注入/ドレン切替ユニットについて(2/3) JP計装ラック【2251A】



補足資料2 注入／ドレン切替ユニットについて(3／3) JP計装ラック【2251B】

